

第3回 災害支援市民ネットワークしが 研究会記録

* 日時：2014年2月18日 13:30～

* 場所：草津市まちづくりセンター

* 内容：今年度の振り返りと来年度の事業計画について

* 出席者：18名（別紙※1「第3回研究会出席者名簿」参照）

* 内容

1, 参加者自己紹介

2, 今年度の取組み報告 別紙資料参照

4月 設立総会

6月 第1回研究会

「滋賀県災害ボランティアセンターについて」

9月 第2回研究会

「HUGを体験する」

10月 臨時研究会

「台風18号対応について情報交換」

12月 被災者支援フォーラム

基調講演「子ども・被災者支援法について」

ほか支援事例について学ぶ

3, 意見交換 別紙※2「意見交換メモ」参照

4, ネットワークのあり方、来年度について

滋賀県は災害が少なく経験が浅い。このネットワークで災害対応力をアップしていく。

県や県社協と連携できることは強み。民間は民間の良さを活かす。

民間らしく楽しくやっていくことも大事。

研究会または講座、フォーラム、訓練、視察、どんな形にせよ平常時の取組みを継続。

コーディネート力をつける（発災時訊かれれば人を繋ぐことができるネットワーク）

県内の各中間支援組織や行政への波及をめざし実績、事例を積み重ねていく。

来年度の予定

2014年度総会 4月22日（火）午後 場所未定

その他連絡

Yahooのメーリングサービス終了により移行の必要あり。追って案内します。

第3回研究会出席者名簿

$$(2\ 0\ 1\ 4.\ 2.\ 1\ 8)$$
[illegible]

※2

第3回研究会意見交換メモ

<自己紹介・ひとこと>

◇1 気仙沼でテント生活。バイクで帰ってきた。関東から「山梨に行きたい」というボランティアから問合せの電話あり「ビバーク用の装備がないとボランティアが遭難する可能性がある。今は物流も止まっている。電車の運行が復活してからの方がいい」とアドバイス。気仙沼では仮設住宅支援。見守りで自殺予防。今は商店街の活性化などまちづくりに関わっている。

◇2 熊野レストレーションで、チェーンソーを使ったテクニカルボランティア。ボラセンでは受け入れてもらえないので行政や自治会に働きかける。今日は、学生ボランティアにも声掛けていたが、残念ながらインフルエンザで欠席。イヴェューサという団体。是非ネットワークに加えて欲しい。山梨に長野在住の仲間が先遣隊が入っている。行政は公道の除雪はできるが個人宅は入れない。個人宅の除雪などを担当することになるだろう。

◇3 高島市は去年台風で被災。自宅も床上浸水した。ボランティアの人が多く入った。この研究会で HUG をやらせてもらったので、「あれをやったほうがいいだろう」ということになり社協と行った。指定管理をしているので必要だと思った。

◇4 福島から避難してきて現在長浜市に住んでいる。先頃福島に帰った。まだ復旧してないところがいっぱいある。福島と避難者をつなぐことをしたい、と、現在大阪の組織に所属している。当事者の作った団体だ。住居問題が福島は被災した他県に比べて進んでいない。融資を受けて住宅の建設を進めている。行政の方針はニーズと合っていない。自分たちの計画では家賃2万円の住宅になる予定。当事者が中心に進めている。3年計画で建設したい。

◇5 あいこうかボランティアセンターは社協が市から指定を受けて運営している。台風18号で自宅と店舗、倉庫が浸水。商品が全滅した。商店ということで、社協ではなく、個人ネットワークのボランティアが来てくれた。毎日素人ボランティア10人を受け入れたが大変だった。吐き気、夜中、洪水の夢を見ることもあった。それで途中からボランティア受入を断った。ボラセンの仕事に帰ってから、今度はボランティアの整理や分析、お礼を出すなどした。今回の反省点として自治会に受け入れ体制がなかったことがある。普段から防災意識を持たなければという本当の気持ちが出てきたようだ。今回、自分のところに県のボラセンからの連絡がなかった。信楽は交通網分断、孤立した。鉄道も復旧しておらず署名活動もやっている。このネットワークも、会議だけしていいのか？と思う。

◇6 大学時代から災害支援ボランティアを行ってきた。大学によって、つながりなどに差がある。学生は自分の学問とのリンクが必要じゃないか。卒業してからも、ボランティアに関わって、スキルアップのためになることを工夫してほしい。

◇6-1 それって、本当のボランティア？自分の学問のためじゃないの？

◇6-2 学生によっても違う。すぐ動く学生と、あとから来る学生とは違う。休みが終わったら帰る学生は、戦力外。

◇6-3 震災後3ヶ月に始めて行った。龍谷大学学生時代。たまたま、教員が阪神大震災の時学生だった人が、募集を個人的に行っていた。大学自体は募集などしてなかった。それで岩手県に行った。その時、ずっと続けて行こうと思った。

◇7 このネットワークは何をするためのネットワークなのか？

◇7-1 防災ネットワークは立ち上がっては消える。災害が10年起きなければ消える。

◇7-2 災害があったら、出かけて行くためのネットワークとかの目標を持っていたい。

◇7-3 今回の災害時でのボランティアについて検証しなければと思っている。社協の問題は、自治会長にニーズを聞く。しかし、それだけでは漏れが生じるのを感じている。

◇7-4 もっと平常時から考えをしっかりとしていたら、もしかしたら、大平さんの被災を聞いたら、みんなで出かけて行くことができたかもしれない。

◇8 自分も甲賀市に住んでいるが、ボランティアは高島市に出かけた。それは、被害情報がなかったから。ただ、今回社協はスキルアップしていたと感じた。自分は栗東市にいますが、社協の活動はうまく行ってなかった。和歌山の台風12号の被害のとき復旧支援に行った。そこで感じたのはコーディネーター力だった。宮城県のボラセンに話を聞いた。「金は必要ない。ネットワークを作りたい」という人が何人かいる。

◇9 県社協は地域リーダー向けに災害ボランティアコーディネーター養成講座。民生委員などのコーディネーター力が必要だ、ということで講座を行う予定。

◇10 総合防災訓練はこのネットワークから阿部と仲野が参加した。

◇11 このネットワークで研修をしたいが資金が確保できていない。助成金申請の予定。近畿ろうきんのNPOパートナーシップ助成は災害関連ではあるが、来年度は東北への支援ではなく、地元の減災などが対象。避難者の会へのサポート、講座、フォーラムをやろうと思っている。

◇12 社協防災訓練の反省点は、残されているのか？

◇12-1 訓練の反省はある、が、あくまで訓練。訓練そのものの訓練。

◇12-2 助成金をもらったら、訓練の反省点を添付して出すべき。

◇13 仲野 ボラセン訓練の時のこと。自分はよくわからないまま、情報発信の部署についた。災害ボラセンの一員となるのか？それとも別にするのか？役割を果たすのか？どうしたらいいのか？

◇14 チェンソーは社協VCでは保険が出ない。だから、民間の組織はチェンソーや重機、社協は福祉だけ、というふうにしてもいいのでは？行政は道路。門から家までは、民間で。みたいな分け方が可能で民間のボランティアの出番がある。

◇15 県域ではそれは難しい。各地域のセンターが立ち上げたら、このネットワークとしても支援するが。たいしたことはできない。

◇16 自分は被災したことがない。支援ボランティアもしたことがない。うちの会社が何かできないか、と思って参加した。(ロケットストーブを開発中)生活しながら、普通の仕事をしながらボランティアできたらいいなと思っている。避難所体験を地域力がどれくらいあるか、やってみるというのはどうだろう。備蓄食糧など、期限切れのものを行政からもらいうけるなどできないか。迷惑にならないボランティアを育てて行くというネットワーク。

◇17 備蓄食糧は、訓練のとき、1年前に使っている。日赤などでやっている。あまり市民にみせていないようだ。

◇18 体験となると、参加者数や地域が限定されてしまう。

◇19 企業は、地元地域とつながるといいと思う。

◇20 ネットワークに夢を抱いても何もない。自分の地域のネットワークを構築しないと、長続きしないだろう。

◇21 異業種でのつながりを作りたい。

◇22 企業もお互いを知らない。防災を軸につながったら、もっと効率的な支援ができるはず。

<これからやって行きたいこと>

◆1 市民が防災を学ぶ機会が多いのか？

◆2 毎年地域で消火器訓練している。やったほうがいい。

◆3 ネットワークで動くのは難しい。勉強していきたいと思っている。

◆4 どういう情報をどう伝えるかが一番大事。自分たちの避難所で行わなければ、意味ない。

◆5 ここで学んだことを地域に持ち帰る。だから、ここは学びの場。という期待。

◆6 けったいな人が参加して欲しい。防災訓練デザイナーたちがオモロイことを作った。災害慣れした国の人たちいる。長期戦になったら、生活になる。だから音楽があるといい。一緒に関わりたい。

◆7 全世界から、そういう事例を紹介して、広めていったらいいじゃないか。幾つかテーマを求めて、研究してそれを発信する。

◆8 今だからこそ話せる災害裏話をここで、学び、地域に広める。調査研究なら、文科省。各種助成金はあるが、わからない。面倒臭い。共同募金も、後からもらうから、それまで自力運営しないといけない。

◆9 自分のところができることではなく、他府県からの助けを研究している。滋賀県も災害はある。ボランティアに団体で行くことへの不満が起きていた。(要請のルートが複数あって重複がおきる。職場から出て行ける人員は限られている) 要請の出し方が下手。

◆10 逆は高知県。山が崩れたら助けが来ないから、備蓄を1ヶ月。

◆11 南海トラフの地震来たら、滋賀県は見捨てられる、と言われている。

◆12 滋賀県の備蓄は、県には降りてこない。もらえない。災害あっても、ボランティアは来てくれない。

<これだけはやっておかねばならないことは？>

- ▼1 しが NPO センターが事務局だが、「災害支援ネットワークしが」への寄付を集める必要がある。自分は NPO から業務委託として月額 5 万円で活動し、報告書を書いて出している。その NPO じたいは（災害支援の）活動はしていないが「東日本大震災支援してます」と言える。収支報告は大変。被災者支援、生業支援、ブランド開発支援など、東日本大震災後、支援は多様化している。ある被災地では、有効でも違う被災地では無効ということもある。
- ▼2 面白い情報をみんなで共有して行くなど。いろんなところでの災害があった、こんな支援をうけた。それを発信して行く。滋賀県の人たちは、支援を知らない。
- ▼3 全てをまとめた情報はない。断片的なものしかない。
- ▼4 うまくできないだろうか。せっきくの救援物資を捨てないように。
- ▼5 事例報告はどうか？
- ▼6 台風 18 号のとき、facebook で台風関連の記事を集めて流した。その時はアクセスも多かった。責任を取れと言われたら困る。
- ▼7 フォーマルとインフォーマルの棲み分けだと思う。草津市でも防災はいろいろある。野草を食べているところもあるし、若いお母さんが消火活動しているところもある。ある NPO では、子どもがじっとしている訓練などを行っている。
- ▼8 面白くなければ、情報がなければ、人は去って行く。
- ▼9 掲示板で書き込めるようになったらいいな。個々が発信できるようにする。
- ▼10 野草は万一毒のあるものを食べてしまった時のリスクが怖い。
- ▼11 防災意識高揚のため、「火の用心」入りバケツを全戸配布してみる。
- ▼12 防災訓練はネタを探している。面白くない訓練している。
- ▼13 面白い講師陣を全国からのを揃えておく。
- ▼14 ゲームソフトで面白いものがあつた。被災生活体験。
- ▼15 若い人には面白がられるが高齢者には別の切り口を用意すること。
- ▼16 災害の情報は、FB ページで流している。いいね！を押してくれる人がいる。
- ▼17 FB をやっている人は、自分も情報発信した。溢れた川の動画ではどこ？地図において欲しい、等と言われたがそこまでの体制は取れずできなかった。
- ▼18 学生は、そういう情報を集めて流すこともできる、お金は掛からない。
- ▼19 来年度は、そういう方向で。

▼20 災害に強いFB講座、災害の情報をまとめやすいTwitterの方法

▼21 東北に東北ネットワークミーティングがある。震災前からある。それが震災後活躍した。そういうものになるといい。

▼22 平常時のお付き合いがあれば震災時に入れる。

▼23 ボランティアに来てもらうこと、何でも言っていんだということ。「受援力」はどうやって作るのか。

▼24 社協の持つ地域のネットワークは大きいものがある。小さい単位ならできるが、広域だと難しい。

▼25 高島市の社協は雪かき道場を行っている。ボランティアをどう受け入れるのか？昼間は自警団の若手男性はいないが、女性や高齢者は自警団はいない。社協はお呼びかけで進んでいる。公民館単位では、社協の力。

▼26 地区社協は頑張っている。雪かき道場は、受け入れる側の研修だった。

<まとめ>

[方向性]

滋賀県は災害が少ない。このネットワークで災害対策力をアップする。

県と県社協が参加していることの強みを活かしたい

民間は民間で楽しくやっていく研究、講座になるのか、わからない。

災害が起きた時、聞いてくれたら、人間をつなぐこともできる

このネットワークの方向性、事例を作っていったら、行政も連携しやすくなると思う。

[課題]

隣接県への支援を行うということを考えて欲しい

(ex. 東南海での想定＝広域支援、県内＝地震・水害・雪害・原発事故？＝受援力)

先遣隊と、後から本体を出すやり方。